学校番号	T1206

令和８年度　　工業科

教科	工業	科目	総合自動車実習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「自動車整備」（実教出版）						
副教材等	「基礎自動車工学」　（日本自動車整備振興会連合会）						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自動車とは現代に生きる我々にとって最も身近な交通手段のひとつであり、欠かせないものである。
総合自動車実習の講座では、自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の取り扱いを学び、安全で安心な自動車の提供に必要な資質・能力を育成する。
本講座は、２年生で基礎自動車実習１と基礎自動車実習２を履修し、３年生で学習することを前提とした講座となる。
授業は自動車工場を中心に行うが、適宜その他工場でも行うことがあるので教科担当の指示を良く聞いて授業に参加すること。
実習系授業では、実習服を着用し安全靴や運動靴のように足を保護できるものを履くこと。
評価は学習態度、実習成果、レポートなどで総合的に評価する。

２ 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、安全で安心な自動車の提供に必要な資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
(1)自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械について構造と機能を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につける。
(2)自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身につける。
(3)自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の付加価値を高める力の向上をめざして自ら学び、自動車産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける。

３ 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・観察の技能を習得し、実際に活用できる能力と態度が身についている。	自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・技術に課題等を見つけ出し、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力が身についている。	自動車整備と自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識や技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に探究するとともに、学びに向かう力が身についている。

上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	自動車エンジンの整備	実習安全 点検と分解 各部の点検・整備 イグナイタ 燃料装置 冷却装置 吸・排気装置 組立と調整	a自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・観察の技能を習得し、実際に活用できる能力と態度が身についている。 b:自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・技術に課題等を見つけ出し、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力が身についている。 c:自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識や技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に探究するとともに、学びに向かう力が身についている。	実習状況 レポート 観察等	実習状況 レポート 観察等	実習状況 レポート 観察等
後期	自動車の整備	動力伝達装置 ステアリング装置 懸架装置 ブレーキ装置 電気装置 ボデー 性能試験	a:自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・観察の技能を習得し、実際に活用できる能力と態度が身についている。 b:自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識・技術に課題等を見つけ出し、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力が身についている。 c:自動車整備に必要な工具や機械の基本的な構造・機能に関する知識や技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に探究するとともに、学びに向かう力が身についている。	実習状況 レポート 観察等	実習状況 レポート 観察等	実習状況 レポート 観察等

※ 表中の観点について　a：知識・技能　　b：思考・判断・表現
c：主体的に学習に取り組む態度